



Kotohому.llc REPORT

白山信仰と前田家が織りなす重層的景観

石川県大聖寺の宗教文化史



2025年07月07日



序論：地名の源流—失われた寺院が定義する景観

石川県加賀市に位置する大聖寺地域の歴史的・文化的アイデンティティは、一つの逆説的な事実の上に成り立っている。それは、この地が、現在は存在しない一つの寺院の名を冠しているという事実である。本報告書は、この「不在の存在」とも言うべき失われた寺院の遺産を基軸に、大聖寺地域がどのように形成されてきたかを解明することを目的とする。その分析は、古代の山岳信仰から中世の宗教制度、そして近世の武家政治に至るまで、幾重にも堆積した歴史の地層を掘り起こす考古学的なアプローチを必要とする。

大聖寺という地名は、単なる地理的呼称ではない。その起源は、平安時代後期、長寛元年（1163年）に原型が成立したとされる『白山之記』にも記されている、白山信仰の拠点「白山宮加賀馬場」に属した「白山五院（はくさんごいん）」の一つ、大聖寺に直接由来する。この事実は、この地域が古くから霊峰白山を崇める強力な宗教文化圏の中心地であったことを示している。後にこの地は、江戸時代に入ると加賀藩の支藩である大聖寺藩の城下町として、前田家一門による政治の中心地へと変貌を遂げた。

したがって、大聖寺の歴史を理解するためには、二つの大きな力の相互作用を読み解かなければならない。一つは、この土地に深く根を張る白山信仰という古来の精神的権威。もう一つは、前田家による近世的な武家統治という政治的権力である。本報告書の物語は、この二つの力が、失われた寺院の記憶の上でいかにして交錯し、今日の「大聖寺」という重層的な文化的景観を織りなしていったのかを追う調査となる。

その核心にあるのは、戦火によって失われた寺院の「不在」が、地名、信仰の象徴（本尊）、そしてその跡地に築かれた政治体制を通じて、いかにして強力な「存在」としてこの地のアイデンティティを規定し続けているかという問いである。



原初の信仰：霊峰白山と修験の祖・泰澄

大聖寺地域の精神的風土の根源には、日本三霊山の一つに数えられる白山への畏敬の念が存在する。この古代信仰が、一人の伝説的な修験者によって体系化され、地域全体の宗教的世界観を形成するに至った。

■ 聖なる山：古代における畏敬の対象

体系化された宗教が確立される以前、白山は自然そのものが神格化された原始的な信仰の対象であった。人々は山に登るのではなく、遠くからその神々しい姿を仰ぎ見る「遥拝（ようはい）」という形で祈りを捧げていた。この時代の信仰において、白山は神そのものであり、あるいは神々が住まう聖域と見なされていた。この素朴で力強いアニミズム的な信仰が、後に登場する一人の人物によって新たな段階へと導かれる土壌となった。

■ 創始神話：泰澄の生涯と伝説

白山信仰の歴史において決定的な役割を果たしたのが、奈良時代の修験僧、泰澄（たいちょう、682年-767年）である。彼の生涯は、単なる歴史上の人物の記録としてではなく、白山信仰という一つの宗教秩序を正当化する「創始神話」として語り継がれている。

伝承によれば、泰澄は越前国（現在の福井県）に生まれ、14歳の若さで山林に入り修行を積んだとされる。その生涯の転機となったのが、霊亀2年（716年）、夢の中に現れた女神から「白山に来たれ」との啓示を受けた出来事である。この神託を信じた泰澄は、それまで誰も成し遂げたことのなかった白山登拝を決意し、幾多の困難の末、養老元年（717年）、36歳の時に山頂に到達した。これが伝説上の白山の「開山」とされる4。

■ 偉大なる統合：本地垂迹による信仰の体系化

泰澄の伝説における最も重要な功績は、神道と仏教という二つの異なる信仰体系を神学的に統合した点にある。彼は白山登頂によって、古来の山の神である白山比咩大神（しらやまひめのおおかみ）、またの名を菊理媛尊（くくりひめのみこと）が、仏教の菩薩である十一面観音の化身（権現）であると「感得（かんとく）」し



たと伝えられる。

この出来事は、日本の神々を仏が衆生を救うために仮の姿で現れたものと解釈する「本地垂迹（ほんじすいじゃく）」思想の典型例である。この神学的統合により、白山信仰は当時の宗教的主流であった修験道（山岳修行、神道、密教が融合した日本独自の宗教）の枠組みの中に組み込まれ、盤石な教義体系を確立した。泰澄の物語は、単なる個人の伝記ではなく、白山信仰の神聖な起源を語り、その中心的な神格（白山権現）と崇拝の対象（十一面観音）を定め、この地域全体の宗教的世界観の設計図となったのである。

信仰の制度化：白山五院と失われた大聖寺

泰澄によって体系化された白山信仰は、やがて具体的な寺社ネットワークとして制度化され、地域社会に深く浸透していった。その中心的な役割を担ったのが、加賀、越前、美濃に設けられた三つの登拝拠点「三馬場（さんばんば）」であり、その中でも加賀馬場に属する「白山五院」は、この地域の信仰の核であった。

馬場制度：巡礼を組織するネットワーク

白山信仰は、加賀、越前、美濃の三つの「馬場」を拠点として組織的に運営されていた。これらの馬場は、それぞれが独立した巡礼路と関連寺社群を管理する一大宗教勢力であった。

本報告書が対象とする大聖寺地域は、このうち加賀馬場に属していた。

加賀馬場の中核をなしたのが、大聖寺、柏野寺（かしわのでら）、薬王院温泉寺（やくおういんおんせんじ）、極楽寺（ごくらくじ）、小野坂寺（おのさかでら）からなる白山五院である。これらの寺院は、遥拝の場を提供し、巡礼者を導き、広大な寺領と信仰儀礼を管理するネットワークとして機能していた。



失われた寺院「大聖寺」とその貴重な遺産

この五院の一つであり、地域名の由来となった寺院こそが、かつて錦城山に壮大な伽藍を構えていた「大聖寺」である。この寺院は、戦国時代の戦火によって焼失し、その姿を地上から消した。しかし、その魂とも言うべき本尊の十一面観音像は、奇跡的に火災から救い出された。

この一体の仏像のその後の遍歴は、日本の宗教史の大きな転換点を物語る貴重な物証となっている。

■ 一体の仏像が辿った道：十一面観音像の旅路

この本尊像の流転の歴史を追うことは、抽象的な歴史のうねりを具体的な形で理解する上で極めて重要である。

第一段階：救出と慈光院への移安

焼失した大聖寺から救い出された十一面観音像は、まず真言宗の寺院である慈光院（じこういん）に移された。慈光院は、後述する山下神社（後の加賀神明宮）の境内地にあり、その神社の管理・運営を一体的に担う「別当寺（べっとうじ）」であった。一つの境内に神社と寺院が共存するこの形態は、神仏習合がごく自然であった前近代日本の宗教的慣習を完璧に示している。

第二段階：明治の神仏分離と薬王院への移転

この状況を一変させたのが、明治元年（1868年）に発布された「神仏分離令」である。この国家政策により、神社の境内にある仏教施設は強制的に廃止されることになった。その結果、慈光院は廃寺となり、本尊の十一面観音像は再びその安住の地を失う危機に瀕した。この貴重な文化遺産を後世に伝えるため、像は山代温泉にある薬王院温泉寺へと移された。薬王院もまた、かつての白山五院の一つであり、像は縁の深い寺院ネットワークの中で保護されることになったのである。

第三段階：現代に伝わる仏像

現在、この十一面観音立像は薬王院温泉寺に安置され、石川県の指定文化財となっている。檜材を用いた一木造（いちぼくづくり）の堂々たる姿は、平安時代の仏教彫刻の優品と高く評価されている。そして何よりも、この像は失われた白山五院「大聖寺」の存在を今に伝えるほぼ唯一の直接的な遺品として、計り知れない歴史的価値を有している。



この一体の仏像が辿った物理的な旅は、日本の宗教史の縮図そのものである。それは戦乱の記憶、神仏習合の日常、そして明治国家による急進的な宗教改革という、時代の大きな画期をその身に刻み込んだ、木彫りの一次史料と言える。この像の来歴を追うことで、大聖寺を形成した歴史の力を具体的に辿ることができるのである。

時代	所在地	状況・出来事	典拠資料
平安時代	白山五院大聖寺	本尊として安置される。白山権現の本地仏として信仰の中心となる。	1
中世～江戸時代	慈光院 (山下神社境内)	大聖寺が戦火で焼失後、救出される。神仏習合の形態をとる慈光院に再安	1
明治時代 (1868年以降)	薬王院温泉寺 (山代)	明治政府の神仏分離令により慈光院が廃寺。像を保護するため移転される。	1
現代	薬王院温泉寺	石川県指定文化財として保存。白山五院の希少な遺品、平安彫刻の傑作として評価される。	16



城下町の支配者：大聖寺藩と前田家の宗教戦略

失われた寺院の跡地に新たな歴史の層を築いたのが、江戸時代の支配者である前田家であった。彼らの宗教への関与は、単なる個人的な信仰心に留まらず、領国経営と深く結びついた高度な政治戦略でもあった。

大聖寺藩の成立

大聖寺藩は、寛永16年（1639年）、加賀藩三代藩主・前田利常の三男である利治（としはる）を初代藩主として成立した、加賀藩の支藩である。当初の石高は7万石であったが、後に10万石にまで加増され、北陸の要衝として重要な役割を担った。

藩主家の私的信仰：菩提寺・実性院

前田家の宗教政策を理解する上で、まず注目すべきは彼らの私的な信仰生活である。その中心となったのが、曹洞宗の寺院・実性院（じっしょういん）であった。この寺は、大聖寺藩前田家代々の菩提寺（ぼだいじ）として定められている。

実性院の起源は、初代藩主・利治の筆頭家老であった玉井市政が、自らが師事する禅僧のために建立した庵に遡る。この寺が藩主家の菩提寺へと昇格する決定的な契機は、万治3年（1660年）の利治の死であった。江戸で没した利治の葬儀が、当時「宗英寺」と称していたこの寺で執り行われたのである。これを機に、寺名は利治の法号（死後の仏名）である「実性院」に改められた。藩主自身の名を寺名とすることで、この寺は単なる家臣の寺から、藩主家の魂そのものを祀る聖域へと変貌を遂げた。現在も実性院の御霊堂には、初代から14代に至る歴代藩主の位牌が祀られている。

国家経営としての宗教：庇護と統制の二重戦略

前田家の宗教政策は、私的な信仰とは別に、領国を安定的に統治するための高度な国家経営術という側面を持っていた。その戦略は、既存の権威の巧みな利用と、新たな秩序の構築という二つの柱からなっていた。

1. 在地権威の取り込み

新たな支配者である前田家は、領民の心を掴み、自らの統治を正当化するために、



この土地に古くから根付く白山信仰の権威を巧みに利用した。

寛永19年（1642年）、初代藩主・利治は、山下神社（加賀神明宮）の境内にある白山宮を前田家の氏神として公式に定め、社領を寄進した。これは、この土地の古来の精神的支柱に自らの新しい支配を接ぎ木する極めて象徴的な政治行動であった。

2.権力と敬虔さの誇示

加賀藩本藩と同様に、大聖寺藩もまた、白山信仰と縁の深い那谷寺（なたでら）などの大寺院の修復に多額の投資を行った。これは、藩主の敬虔な信仰心を示すと同時に、その強大な経済力と権力を領内外に誇示する効果的な手段であった。

3.都市計画と社会統制

前田家の宗教政策は城下町の物理的な設計にも及んだ。越前との国境に面した城下の西辺には、「山ノ下寺院群（やまのしたじいんぐん）」が意識的に配置された。曹洞宗や日蓮宗などの寺院をこの一帯に集めることで、有事の際の防御拠点とすると同時に、江戸幕府が全国的に推進した寺請制度（てらうけせいど）の下で、寺院を戸籍管理や住民統制の末端機関として利用したのである。

このように、前田家の宗教への関わりは、菩提寺に象徴される個人的・精神的な側面と、領国支配の道具としての公的・政治的な側面が巧みに組み合わされた二重構造をなしていた。それは、近世武家社会におけるエリート支配層に典型的な、信仰と統治が不可分に結びついた姿であった。

城下町の生きた信仰：寺社群と民衆の祈り

藩主前田家のエリート層が展開した宗教政策と並行して、城下町に暮らす武士や町人、農民たちの間でも、豊かで多様な信仰文化が花開いていた。その舞台となったのが、藩によって計画的に配置された寺社群であり、特に山ノ下寺院群、町の総鎮守である加賀神明宮、そして加賀国二宮である菅生石部神社であった。

山ノ下寺院群の精神的地勢

藩の西の守りとして配置された山ノ下寺院群は、単なる防衛施設ではなく、多様な宗派が共存する活気に満ちた「精神的な市場」の様相を呈していた。

全昌寺（ぜんしょうじ）

この曹洞宗寺院は、民衆信仰の一大拠点であった。その最大の魅力は、堂内に安置された517体にも及ぶ五百羅漢像である。これらの写実的な像は、藩の奥女中や武



士、町人といった幅広い階層からの寄進によって慶応3年（1867年）に完成したものであり、階級を超えた信仰の広がりを物語っている。また、元禄2年（1689年）に伴聖・松尾芭蕉が『おくのほそ道』の旅の途中で宿泊したことでも知られ、境内には芭蕉と曾良の句碑が残り、文化的な巡礼地としての性格も帯びている。

宗寿寺（そうじゅじ）

この日蓮宗寺院の山門は、元々大聖寺藩の関所として使われていた門を移築したものである。この門は、町の人々にとって、藩の権威を日常的に意識させる象徴的な建造物であった。

多様な精神的エコシステム

その他にも、山ノ下寺院群には、『日本百名山』の著者・深田久弥の墓がある本光寺（ほんこうじ）や、「履物を履いた阿弥陀如来」という珍しい秘仏を祀る正覚寺（しょうがくじ）などが軒を連ね、この地区に信仰、文化、記憶が豊かに集積していたことを示している。

町の心の拠り所：加賀神明宮と祭礼

城下町全体の守り神「総鎮守（そうちんじゅ）」として崇敬されたのが、加賀神明宮である。地元では親しみを込めて「山下神社（やましたじんじゃ）」とも呼ばれている。

この神社の役割は、藩主家の庇護を受けるだけでなく、町衆の共同体の核となることにあった。特に、熊坂川沿いの桜並木が満開になる時期に行われる春の例祭は、町中から人々が集まり、神事に参加すると同時に花見を楽しむ、地域最大の年中行事であった。

このような祭礼は、身分や階級を超えて町の人々が一体感を共有する重要な機会であり、加賀神明宮が地域社会の絆を育む中心的な場所であったことを示している。

加賀国二宮の権威：菅生石部神社

大聖寺の宗教的景観において、もう一つ極めて重要な存在が、加賀国二宮の社格を持つ菅生石部神社（すごういそべじんじゃ）である。この神社は、白山比咩神社（一宮）に次ぐ公的な権威を持ち、古くから朝廷や武門の崇敬を集めてきた。近世においては、加賀藩主および大聖寺藩主からも篤い尊信を受け、藩お抱えの名工に



よって神門が造営されるなど、手厚い庇護を受けていた。

主祭神は日子穗穗出見命（ひこほほでみのみこと）とその家族神であるが、通称「敷地天神」とも呼ばれ、学業成就の神としても信仰されている。

また、2月に行われる「御願神事（ごがんしんじ）」、通称「竹割りまつり」は、若者たちが境内で青竹を激しく打ち砕く勇壮な祭りで、地域に深く根差した民衆信仰の活力を今に伝えている。このように、菅生石部神社は、国家的な権威と地域的な信仰が融合した、大聖寺におけるもう一つの信仰の中心地であった。

信仰の聖地：松任・鶴来の歴史の変遷

白山信仰の核心を理解するためには、その総本宮である白山比咩神社を擁する現在の白山市、特に旧松任市と旧鶴来町の歴史を遡る必要がある。

この地域は、白山から流れ出る手取川が形成した広大な扇状地の扇頂部（鶴来）と扇央部（松任）に位置し、古代から現代に至るまで、信仰と政治の中心地として幾多の変遷を遂げてきた。

白山信仰の黎明期：古代から平安時代

手取川扇状地には縄文・弥生時代から人々の生活の痕跡が見られ、古代の人々が白山の雄大な自然に畏敬の念を抱いていたことがうかがえる。白山信仰が組織化される以前、この地は素朴な自然崇拝の舞台であった。

歴史が大きく動くのは、奈良時代の修験僧・泰澄による白山開山伝説からである。社伝によれば、白山比咩神社は崇神天皇の時代に創建され、幾度かの遷座を経て、この地に根を下ろした。平安時代には、加賀・越前・美濃の三つの登拝口「三馬場」が整備され、白山比咩神社は「加賀馬場」の中核として、白山信仰の一大拠点としての地位を確立した。

鶴来は、その名の通り、白山への玄関口として、また豊かな伏流水に恵まれた酒どころとしても知られるようになった。

動乱の時代：鎌倉から戦国時代

鎌倉時代以降、加賀国の支配権を握った守護大名・富樫氏は、白山比咩神社と深く結びつき、その権威を利用して勢力を拡大した。しかし、室町時代中期になると、



蓮如によって急速に広まった浄土真宗（一向宗）の力が、既存の支配体制を揺るがし始める。

富樫氏と一向宗門徒との対立は激化し、ついに長享2年（1488年）、富樫政親が一向一揆によって討たれ、富樫氏は滅亡する。これにより、加賀は「百姓の持ちたる国」と呼ばれる、約100年間にわたる門徒による自治の時代へと突入した。この過程で、白山信仰を支えてきた衆徒も享禄の錯乱（1531年）などで大きな打撃を受け、その勢力は一時衰退した。

この動乱は、隣国との関係も複雑化させた。

越前の朝倉氏は加賀の一向一揆と対立し、その戦火は那谷寺など白山信仰ゆかりの寺社にも及んだ。そして、尾張出身の織田信長が天下統一に乗り出すと、その配下の柴田勝家が加賀に侵攻し、天正8年（1580年）に一向一揆を平定。

加賀の支配体制は再び大きく転換した。

この地域は、美濃や越前といった周辺勢力との政治的・宗教的な緊張関係の中で、常に歴史の最前線にあり続けたのである。

前田家の統治と信仰の再興：江戸時代

織田信長の後、加賀を治めることになったのが前田利家である。

天正14年（1586年）、利家は戦乱で荒廃していた白山比咩神社に金品を寄進し、その再興に着手した。これは単なる信仰心の発露ではなく、加賀の民衆の精神的支柱である白山信仰を庇護することで、新たな支配の正当性を確立しようとする高度な統治戦略であった。

利家のこの政策は歴代の加賀藩主に受け継がれ、白山比咩神社は藩の祈願所として手厚い保護を受けた。4代藩主・綱紀は母の冥福を祈って名刀「白山吉光」（国宝）を奉納し、10代藩主・重教は現在の本殿を寄進するなど、前田家と白山信仰の結びつきは一層強固なものとなった。

このように、現在の白山市、特に松任・鶴来地域は、古代の自然崇拜から始まり、白山信仰の確立、富樫氏の興亡、一向一揆による自治、そして前田家の統治という重層的な歴史を経てきた。その中心には常に白山比咩神社が存在し、この地域は時代ごとの権力者と深く関わりながら、白山信仰の聖地として、その歴史を刻み続けているのである。



白山信仰の多角的研究

霊峰白山をめぐる信仰は、古代の自然崇拜に始まり、修験道、仏教、そして時の権力者の思惑と深く結びつきながら、重層的で豊かな文化を形成してきた。

以下に、その詳細を多角的に解説する。

前田家の影響

江戸時代、加賀藩を治めた前田家は、白山信仰の強力な庇護者であった。

復興と庇護：戦国時代の混乱や一向一揆によって衰退していた白山信仰の諸社は、加賀藩の支援によって復興を遂げた。特に初代藩主・前田利家は、焼失した白山比咩神社の再興に尽力し、「中興の祖」と称されている。利家は天正14年（1586年）に金品を寄進し、その慣習は歴代藩主にも受け継がれた。

祈願所としての位置づけ：加賀藩は白山比咩神社を藩の祈願所とし、篤く崇敬した。また、白山信仰と縁の深い那谷寺（小松市）なども手厚く保護した。

文化への影響：前田家は能楽を奨励し、神社の祭礼で能を奉納する「神事能」を再興するなど、信仰と結びついた文化の発展にも寄与した。

泰澄の影響

奈良時代の修験僧・泰澄（たいちょう）は、白山信仰の「開祖」として伝説的な存在である。

信仰の体系化：泰澄は、それまで原始的な自然崇拜の対象であった白山に初めて登頂し、そこで十一面観音の姿を感得したと伝えられている。これにより、日本の古来の神と仏教の仏が同一であるとする「神仏習合」の思想が白山信仰に導入され、修験道として体系化された。

伝説と名声：泰澄は、天皇の病を治したり、疫病を鎮めたりといった数々の奇跡を行ったとされ、「越の大徳」と讃えられた。その名は、山々を巡る修験者たちによって全国に広められた。

実在性：その生涯は伝説に彩られているが、近年の考古学調査では、泰澄の生誕地とされる場所から「大徳」と記された奈良時代の土器が発見されるなど、その存在を示唆する物証も見つかっている。



■ 一向一揆と一向宗との関係

白山信仰と一向宗（浄土真宗）の関係は、時代や地域によって対立と共存の様相を見せる。

対立と破壊：戦国時代、白山信仰の越前における最大拠点であった平泉寺は、一向一揆勢によって全山を焼き討ちにされ、壊滅的な被害を受けた。
加賀国においても、一向宗の勢力が拡大する中で、白山信仰の教団は衰退した。

信者の吸収と共存：一方で、一向一揆の参加者の中には、白山信仰の聖職者であった「長吏（ちょうり）」も含まれていた。武士の支配に抵抗する中で、浄土真宗が白山信者を吸収していった側面も指摘されている。また、美濃の石徹白（いとしろ）のように、白山信仰の拠点でありながら村全体が真宗門徒となり、二つの信仰が重なり合って存在する「二重信仰」の地域もあった。

■ 白山周辺地域への影響と文化形成

白山信仰は、麓の加賀、越前、美濃の三地域に深く根を下ろし、自然環境から人々の生活様式、食文化に至るまで、広範な影響を与えた。

自然景観の保全：白山が神聖な場所と見なされたことで、その広大な自然環境は手つかずのまま今日まで保全されてきた。

水の文化：白山を源流とする手取川などの河川は、農耕に不可欠な水を供給するだけでなく、その水自体が「霊水」として信仰の対象となった。

生活と食文化：山麓の豪雪地帯では、「出作り」と呼ばれる季節的な二重生活や、厳しい冬を越すための保存食文化（白峰地区の「ほんこさん料理」など）が育まれた。

民俗文化：信仰と結びついた「放楽相撲」のような民俗芸能も各地で受け継がれている。

信仰の道：白山山頂へと続く「禅定道（ぜんじょうどう）」沿いには、遥拝所や宿坊、集落が形成され、山村特有の生活文化圏が生まれた。



各地域との関係

松任（現・白山市）との関係：白山信仰の総本宮である白山比咩神社が鎮座する白山市は、旧松任市をその行政区域に含んでおり、まさに信仰の中心地である。

市内には、泰澄が開いたとされる霊場を起源に持つ真教寺や、白山信仰関連の文化財を持つ神社が点在している。

金沢との関係：金沢では、浄土真宗の勢力拡大に伴い、土着の白山信仰が吸収されていった歴史がある。

しかし、現在も市内には白山比咩神社から分霊された産土神としての白山神社が複数存在する。

小松との関係：小松市には、白山信仰と縁の深い古刹・那谷寺があり、前田家からも篤い崇敬を受けた。

また、泰澄が温泉を発見した際に創建したと伝わる粟津温泉の白山神社や、小松城ゆかりの神殿を持つ白山神社など、信仰に由来する社寺が数多くある。

民俗学的視点での白山信仰と立山信仰について

日本三霊山に数えられる白山と立山は、共に古代の山岳信仰を基盤とする点で共通するが、その信仰形態には興味深い違いが見られる。

共通点

開山伝説：どちらの開山伝説にも、動物が神仏の化身として現れるモチーフが見られる（立山は鷹と熊、白山は竜神）。

修験と女人禁制：両山とも全国から修験者が集まる修行の場であり、かつては厳しい女人禁制が敷かれていたが、明治時代に解禁された。

相違点

信仰の広がり：白山信仰が全国に約3,000社の分社を持つ一方で、立山信仰は基本的に立山周辺に限定されている。

布教の形態：立山信仰では、芦峯寺（あしくらじ）の御師（おし）たちが「立山曼荼羅」という地獄や極楽を描いた絵図を用いて布教を行う「絵解き」が特徴的であった。白山信仰にも御師による布教活動はあったが、立山ほど体系化された絵解きは知られていない。



女人救済の儀礼：立山では、山に入れない女性を救済するため、橋を渡ることによって極楽往生を疑似体験させる「布橋灌頂会（ぬのばしかんじょうえ）」という大規模で独特な儀礼が行われた。白山信仰には、これに相当する特徴的な儀礼の記録は見当たらない。

信仰の拠点：白山信仰が加賀・越前・美濃の「三馬場（さんばんば）」と呼ばれる広域的な拠点を中心に展開したのに対し、立山信仰は岩峯寺（いわくらじ）と芦峯寺という二つの集落が登拝の拠点として重要な役割を担った。

失われた環の再接続：大聖寺、菅生石部、そして白山信仰の未来

大聖寺は、その名に白山信仰の記憶を刻みながらも、現代においては白山信仰の中心地である白山比咩神社（鶴来）との直接的な結びつきが希薄化しているように見える。この歴史的経緯を分析し、未来に向けた新たな関係構築の可能性を探る。

歴史の断層：大聖寺と白山信仰の乖離

大聖寺が白山信仰の第一線から退いた背景には、複数の歴史的要因が複合的に作用している。

第一に、信仰の核となる物理的拠点の喪失である。

戦国時代の戦火により、地名の由来となった白山五院の一つ「大聖寺」が焼失したことは決定的であった。

これにより、信仰の中心地としての機能が物理的に失われた。

第二に、信仰の象徴たる本尊の流転が挙げられる。

奇跡的に救出された本尊の十一面観音像は、まず慈光院へ、そして明治の神仏分離令によって慈光院が廃寺となると、さらに山代の薬王院温泉寺へと移された。信仰の象徴がその土地を離れたことは、民衆の意識の上での結びつきを弱める一因となった。

第三に、政治体制の変化による町の性格変容である。

江戸時代に大聖寺藩が成立すると、この地は宗教都市から前田家の城下町へと性格を変えた。

藩は白山信仰を庇護したが、それは領国統治の一環であり、藩主家の菩提寺は曹洞宗の実性院に置かれるなど、信仰の重心は新たな支配体制へと移行した。

最後に、明治政府による神仏分離令が、残っていた繋がりを断ち切った。



本尊を護ってきた慈光院の廃寺は、大聖寺の地における神仏習合の白山信仰の歴史に、制度上の終止符を打つ形となったのである。

記憶の継承：現代における復活の接点

関係性が希薄化したとはいえ、大聖寺と白山信仰の歴史的な環を再び繋ぐための接点は、今なお数多く存在する。

物的遺産としての本尊：現在、薬王院温泉寺に安置される十一面観音立像は、失われた寺院「大聖寺」の存在を今に伝える唯一無二の物証である。この像の歴史的価値は極めて高く、その由緒を広く伝えること、あるいは特別公開や「里帰り」といった企画を通じて、大聖寺がかつて白山信仰の重要拠点であった事実を再認識させる強力な起爆剤となりうる。

地名という生きた記憶：「大聖寺」という地名そのものが、白山五院に由来するという歴史は、最も分かりやすい接点である。この地名の由来を地域のアイデンティティの中核に据え、教育や観光の場で積極的に活用することで、民衆の意識に歴史を呼び覚ますことが可能である。

加賀国二宮という公的關係性：大聖寺には、加賀国一宮・白山比咩神社に次ぐ社格を持つ二宮・菅生石部神社が鎮座する。この公式な序列は、両社が加賀国を代表する神社として対で認識されていたことを示す。さらに重要なのは、菅生石部神社の境内には末社として明確に「白山社」が存在し、白山比咩大神（菊理姫命）が祀られている点である。

これは、二宮が一宮である白山への敬意を明確に示していた証拠であり、信仰上の揺るぎない直接的な接点と言える。

物語の再構築：広域連携への可能性

現在、観光の視点では白山信仰の中心地である白山比咩神社・鶴来と、大聖寺は切り離されて捉えられがちである。しかし、大聖寺が持つ独自の歴史的背景は、両者を結びつけ、より深く豊かな広域観光ストーリーを構築する鍵となりうる。

その切り口は、「加賀国・一宮二宮巡礼の旅」という物語である。

白山信仰の総本宮である白山比咩神社（一宮）と、大聖寺に鎮座する菅生石部神社（二宮）をセットで巡ることは、加賀国全体の信仰の構造を体感する旅となる。



この物語において、大聖寺は「白山五院の記憶」と「加賀国二宮の権威」という二つの歴史的レイヤーを持つ場所として再定義される。

さらに、「本尊の旅路」というストーリーも加わる。

大聖寺で生まれ、戦火を逃れ、神仏分離の波を乗り越えて山代の薬王院温泉寺に安住する十一面観音像の遍歴は、それ自体が加賀地方の宗教史を体現するドラマである。この像の軌跡を追うことは、鶴来、大聖寺、山代温泉という三つの地域を一つの物語で結びつけ、周遊を促す魅力的な動機となりうる。

結論として、大聖寺は単なる城下町ではない。

白山信仰という壮大な物語の「失われた環」であり、その記憶を菅生石部神社との関係性の中で再接続することによって、白山信仰圏全体の歴史的価値を高め、新たな文化観光の可能性を切り拓くポテンシャルを秘めているのである。

結論：重層的歴史の継承

石川県大聖寺のユニークな宗教文化史は、単一の物語ではなく、異なる時代の歴史が幾重にも堆積した「地層」として理解することができる。

そのアイデンティティは、以下の複数の主要な層の複合体として成り立っている。

第一層：原初の信仰

その基盤には、霊峰白山への古代アニミズム的な畏敬の念がある。この原始的な力は、伝説的な修験者・泰澄の物語を通じて神仏習合の体系的な教義を与えられ、この地域に強力かつ永続的な精神的基盤を築いた。

第二層：制度的遺産

次に、白山信仰は「白山五院」という具体的な寺社ネットワークとして制度化された。この制度がこの地に「大聖寺」という名を与え、その最も重要な宗教的象徴である十一面観音像を残した。戦乱による寺の焼失と、明治維新による国家の宗教政策という二つの大きな歴史的断絶を乗り越えたこの仏像の遍歴は、大聖寺の歴史そのものを体現する物理的な証人である。

第三層：公的秩序と政治的被膜

平安時代以降に確立された一宮・二宮という国家的な社格制度は、この地に新たな秩序をもたらした。加賀国二宮・菅生石部神社の存在は、大聖寺が白山信仰圏の周縁ではなく、公的な宗教秩序の中に明確に位置づけられていたことを示している。江戸時代に入ると、前田家による大聖寺藩の成立がさらに新たな層を形成した。彼



らは、菩提寺・実性院に象徴される私的な信仰を維持しつつ、白山信仰の権威を取り込み、寺社群を戦略的に配置するという高度な宗教政策を展開した。これにより、城下町の物理的景観と精神的秩序が決定づけられた。

第四層：民衆の経験

最上層には、城下町に生きた人々の活気に満ちた信仰がある。それは、藩主の公式な宗教とは別に、五百羅漢への祈りや、芭蕉のような文化英雄への敬慕、そして町全体が一体となる祭礼といった形で花開いた。この民衆の信仰こそが、歴史的建造物や制度に今なお生命を吹き込んでいる力である。

結論として、大聖寺は歴史の持続性を示す類稀な事例である。そこでは過去は消去されるのではなく、絶えず積み重ねられてきた。かつてこの地にあった「大聖寺」という寺院の「不在」は、町の名前としてその存在を留め、その魂であった本尊は近隣の寺で大切に守られている。そして、菅生石部神社の権威や前田家が築いた政治的・宗教的枠組みは、今なお現代の町の骨格を成している。大聖寺を訪れることは、霊峰、伝説の修験者、そして権力ある武家大名が、一つの景観の中に共存し続ける、生きた日本の歴史の地層を目の当たりにすることに他ならない。



引用文献

1. 加賀神明宮境内社「白山宮」(石川県)白山社めぐり(146)-白山比咩神社,(2025.07)
<https://www.shirayama.or.jp/hakusan/yashiro/y146.html>
www.daisyoji.com,(2025.07)
<https://www.daisyoji.com/%E5%A4%A7%E8%81%96%E5%AF%BA%E3%81%A3%E3%81%A6%E3%81%A9%E3%82%93%E3%81%A%E3%81%A8%E3%81%93/%E5%A4%A7%E8%81%96%E5%AF%BA%E3%81%AE%E6%AD%B4%E5%8F%B2/#:~:text=%E5%A4%A7%E8%81%96%E5%AF%BA%E3%81%AF%E3%80%81%E7%9F%B3%E5%B7%9D%E7%9C%8C%E5%8D%97%E9%83%A8,%E3%81%A4%E3%81%AB%E7%94%B1%E6%9D%A5%E3%81%97%E3%81%BE%E3%81%99%E3%80%82>
2. 大聖寺,(2025.07)
http://www.shurakumachinami.natsu.gs/03database-page/ishikawa_data/daishoji/daishoji_file.html
3. 大聖寺町-Wikipedia,(2025.07)
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E8%81%96%E5%AF%BA%E7%94%BA>
4. 大聖寺十万石城下町～江戸時代の町絵図で歩ける町～(加賀市)-石川県,(2025.07)
<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kyoiku/bunkazai/ishikawarekishi/documents/hp.pdf>
5. 大聖寺藩-Wikipedia,(2025.07)
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E8%81%96%E5%AF%BA%E8%97%A9>
6. 女神と菩薩の座神仏混淆の白山信仰-JR西日本,(2025.07)
https://www.westjr.co.jp/company/info/issue/bsignal/08_vol_121/feature01.html
7. 白山信仰-Wikipedia,(2025.07)
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%99%BD%E5%B1%B1%E4%BF%A1%E4%BB%B0>
8. 白山信仰の開祖、泰澄大師-ふくい歴史王,(2025.07)
<http://rekishi.dogaclip.com/rekishioh/2015/07/post-8a82.html>
9. 泰澄 | 白山比咩神社 | 石川県,(2025.07)
<https://www.shirayama.or.jp/hakusan/belief01.html>
10. 泰澄前田利常歴史-那谷寺を知る,(2025.07)
http://www.natadera.com/shiru_rekishi/
11. 白山比咩神社-石川県：歴史・観光・見所,(2025.07)
<https://www.isitabi.com/hakusan/hime.html>
12. 【第1部】構想の位置付けと背景-加賀市,(2025.07)
<https://www.city.kaga.ishikawa.jp/material/files/group/92/11292.pdf>
13. 深田久弥を訪ねて-大聖寺十万石の城下町,(2025.07)
[https://www.daisyoji.com/%E3%81%8A%E3%81%99%E3%81%99%E3%82%81%E6%95%A3%E7%AD%96%E3%82%B3%E3%83%BC%E3%82%B9-1/%E6%B7%B1%E7%94%B0%E4%B9%85%E5%BC%A5%E3%82%92%E8%A8%AA%E3%81%AD%E3%81%99%E3%81%99%E3%82%81%E6%95%A3%E7%AD%96%E3%82%B3%E3%83%BC%E3%82%B9-1/](https://www.daisyoji.com/%E3%81%8A%E3%81%99%E3%81%99%E3%82%81%E6%95%A3%E7%AD%96%E3%82%B3%E3%83%BC%E3%82%B9-1/%E6%B7%B1%E7%94%B0%E4%B9%85%E5%BC%A5%E3%82%92%E8%A8%AA%E3%81%AD%E3%81%99%E3%81%99%E3%82%81%E6%95%A3%E7%AD%96%E3%82%B3%E3%83%BC%E3%82%B9-1/%E6%B7%B1%E7%94%B0%E4%B9%85%E5%BC%A5%E3%82%92%E8%A8%AA%E3%81%AD%E3%81%99%E3%81%99%E3%82%81%E6%95%A3%E7%AD%96%E3%82%B3%E3%83%BC%E3%82%B9-1/)



A6/

14. 県指定文化財／加賀市,(2025.07)
https://www.city.kaga.ishikawa.jp/ed/bunka_shinko/6062.html
15. 木造十一面観音立像・木造徹通義介坐像-石川県,(2025.07)
<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kyoiku/bunkazai/tyokoku/k-4.html>
16. 【霊方山薬王院温泉寺】北陸仏巡り一日目①|仏像に会いにお寺へ行こう。,(2025.07)
<https://ameblo.jp/takumi40548/entry-12267888633.html>
17. 古仏探訪～2023年・前半の観仏を振り返って〈その3〉【2023.09.15】,(2025.07)
<https://kanagawabunkaken.blog.fc2.com/blog-entry-298.html>
18. 薬王院温泉寺 | 【公式】加賀温泉郷,(2025.07)
https://www.tabimati.net/spot/detail_255.html
19. 前田氏（加賀大聖寺藩主家）<花筐館>,(2025.07)
<http://www.hanagatamikan.com/hollyhock/warrior/edo/daishojimaeda.html>
20. 前田家大聖寺支藩系図,(2025.07)
<http://www1.cnh.ne.jp/minton2/Gallery-10-14-8.html>
21. 大聖寺(ダイショウジ)とは？意味や使い方-コトバンク,(2025.07)
<https://kotobank.jp/word/%E5%A4%A7%E8%81%96%E5%AF%BA-91339>
22. 金龍山實性院|曹洞宗石川県宗務所,(2025.07)
<https://www.sotozen-net.jp/temple/43>
23. 大聖寺山ノ下寺院群 | 【公式】加賀温泉郷,(2025.07)
https://www.tabimati.net/spot/detail_179.html
24. 前田利治の灰塚-大聖寺十万石の城下町,(2025.07)
<https://www.daisyoji.com/%E8%A6%B3%E5%85%89%E3%81%AE%E6%83%85%E5%A0%B1/%E7%A5%9E%E7%A4%BE-%E4%BB%8F%E9%96%A3-%E5%8F%B2%E8%B7%A1/%E5%89%8D%E7%94%B0%E5%88%A9%E6%B2%BB%E3%81%AE%E7%81%B0%E5%A1%9A/>
25. 大聖寺駅周辺の神社・神宮・寺院ランキングTOP10-加賀市-じゃらんnet,(2025.07)
https://www.jalan.net/kankou/sta_009474/g1_20/
26. 加賀神明宮 | 【公式】加賀温泉郷,(2025.07)
https://www.tabimati.net/spot/detail_246.html
27. 加賀藩-石川県：歴史・観光・見所,(2025.07)
<https://www.isitabi.com/jyouka/kaga.html>
28. 幕藩体制(2)～宗教政策と鎖国|日本近現代史のWEB講座,(2025.07)
http://jugyo-jh.com/nihonsi/jha_menu-2-2/%E5%B9%95%E8%97%A9%E4%BD%93%E5%88%B62%E5%BD%9E%E6%9C%9D%E5%BB%B7%E3%83%BB%E5%AE%97%E6%95%99%E3%83%BB%E9%8E%96%E5%9B%BD/
29. 四幕府の宗教統制と寺檀制度-データベース『えひめの記憶』 | 生涯学習情報提供システム,(2025.07)



<https://www.i-manabi.jp/system/regionals/regionals/ecode:2/54/view/7308>

30. 熊谷山全昌寺-曹洞宗石川県宗務所,(2025.07)
<https://www.sotozen-net.jp/temple/44>
31. 全昌寺（加賀市）-石川県：歴史・観光・見所,(2025.07)
<https://www.isitabi.com/kaga/zensyou.html>
32. 日蓮宗久昌山宗寿寺,(2025.07)
<https://temple.nichiren.or.jp/4051043-soujyuji/>
33. 桜まつり | 【公式】加賀温泉郷,(2025.07)
https://www.tabimati.net/event/detail_332.html
34. 地元ガイドさんで行く まち歩きジオツアー-白山手取川ジオパーク,(2025.07)
<https://hakusan-geo.jp/guide/>
35. 鶴来北部遺跡群調査報告I,(2025.07)
https://sitereports.nabunken.go.jp/files/attach/55/55761/132816_1_%E9%B6%B4%E6%9D%A5%E5%8C%97%E9%83%A8%E9%81%BA%E8%B7%A1%E7%BE%A4%E8%AA%BF%E6%9F%BB%E5%A0%B1%E5%91%8A%E2%85%A0.pdf
36. 白山比咩神社-Wikipedia,(2025.07)
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%99%BD%E5%B1%B1%E6%AF%94%E5%92%A9%E7%A5%9E%E7%A4%BE>
37. 白山比咩神社をしっかりと参拝、探検してみる！そして噂のおはぎアイス！-Spoon&ForktokidokiOhashi,(2025.07)
<https://001.jpn.com/eat/1392/%E7%99%BD%E5%B1%B1%E6%AF%94%E5%92%A9%E7%A5%9E%E7%A4%BE%E3%82%92%E3%81%97%E3%81%A3%E3%81%8B%E3%82%8A%E5%8F%82%E6%8B%9D%E3%80%81%E6%8E%A2%E6%A4%9C%E3%81%97%E3%81%A6%E3%81%BF%E3%82%8B%E3%81%9D/>
38. 加賀富樫氏と室町幕府,(2025.07)
<https://omu.repo.nii.ac.jp/record/2001279/files/2024000626.pdf>
39. 加賀一向一揆／ホームメイト-刀剣ワールド,(2025.07)
<https://www.touken-world.jp/history/history-important-word/kagaikkoikki/>
40. 柴田勝家愛知の武将／ホームメイト,(2025.07)
<https://www.touken-collection-nagoya.jp/historian-aichi/aichi-shibata/>
41. 柴田勝家の歴史／ホームメイト-戦国武将一覧-刀剣ワールド,(2025.07)
<https://www.touken-world.jp/tips/7470/>
42. 白山登拝の起点加賀と越前の神域-JR西日本,(2025.07)
https://www.westjr.co.jp/company/info/issue/bsignal/08_vol_121/feature03.html
43. 前田綱紀-Wikipedia,(2025.07)
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%89%8D%E7%94%B0%E7%B6%B1%E7%B4%80>
44. 泰澄 | 越前町織田文化歴史館,(2025.07)



- <https://www.town.echizen.fukui.jp/otabunreki/panel/05.html>
45. 白山信仰 | 白山比咩神社 | 石川県,(2025.07)
<https://www.shirayama.or.jp/hakusan/belief.html>
46. 守郷白山神社（白山市木津町100）-石川県神社庁,(2025.07)
<https://www.ishikawa-jinjacho.or.jp/shrine/j0832/>
47. 那谷寺（なたでら）白山信仰自然智の森・高野山真言宗別格本山,(2025.07)
<https://natadera.com/>
48. 【前編】泰澄大師の白山開山ものがたり-くくるをめぐる,(2025.07)
<https://kukuruwomeguru.com/colum/%E5%89%8D%E7%B7%A8%E6%B3%B0%E6%BE%84%E5%A4%A7%E5%B8%AB%E3%81%AE%E7%99%BD%E5%B1%B1%E9%96%8B%E5%B1%B1%E3%82%82%E3%81%AE%E3%81%8C%E3%81%9F%E3%82%8A/>
49. 白山開山の泰澄は秦氏出身で、韓神信仰の影響が見られる説-瀬戸の島から,(2025.07)
<https://tono202.livedoor.blog/archives/30539034.html>
50. 「霊峰白山」と山麓の文化的景観-石川県歴史文化会議,(2025.07)
<https://www.kanazawa-hakusan.com/hakusan/>
51. 白山神社（小松市島田町庚33）-石川県神社庁,(2025.07)
<https://www.ishikawa-jinjacho.or.jp/shrine/j0617/>
52. 白山(ハクサン)とは？意味や使い方-コトバンク,(2025.07)
<https://kotobank.jp/word/%E7%99%BD%E5%B1%B1-113664>
53. 白山比め神社-駅探,(2025.07)
<https://ekitan.com/local-info/leisure/spot/spid-8d8d48608e3c4327ce147d88ffde32f1>
54. 粟津温泉：白山神社,(2025.07)
<https://www.isitabi.com/awadu/hakusan.html>
55. 泰澄一白山信仰における意義を探る一-福井県,(2025.07)
<https://www.pref.fukui.lg.jp/muse/Cul-Hist/info/kouhoushi/fm56.pdf>
56. 立山信仰の世界を感じる「立山登拝道」を行く|特集-とやま観光ナビ,(2025.07)
https://www.info-toyama.com/stories/tateyama_tohaido
57. 加賀地方の特殊神事『御願神事』-文化庁広報誌ぶんかる,(2025.07)
https://www.bunka.go.jp/prmagazine/rensai/matsuri/matsuri_015.html
58. 菅生石部神社すごういそべじんじゃsugouisobe,(2025.07)
<https://su5.jp/>
59. 菅生石部神社-Wikipedia,(2025.07)
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%8F%85%E7%94%9F%E7%9F%B3%E9%83%A8%E7%A5%9E%E7%A4%BE>
60. 市指定文化財-加賀市,(2025.07)



https://www.city.kaga.ishikawa.jp/ed/bunka_shinko/6064.html

61. 菅生石部神社の神門-大聖寺十万石の城下町,(2025.07)
<https://www.daisyoji.com/2023/07/08/%E8%8F%85%E7%94%9F%E7%9F%B3%E9%83%A8%E7%A5%9E%E7%A4%BE%E3%81%AE%E7%A5%9E%E9%96%80/>
62. 菅生石部神社の御朱印は？全国の斎藤さんの氏神で加賀国二ノ宮のパワースポット（石川県加賀市）, (2025.07)
<https://ameblo.jp/pandatrapeljp/entry-12816909871.html>
63. 菅生石部神社 | 【公式】加賀温泉郷,(2025.07)
https://www.tabimati.net/spot/detail_155.html
64. 菅生石部神（すごういそべのかみ）|羽黒神社宮司のブログ,(2025.07)
<https://ameblo.jp/hagurotetsu/entry-12745015769.html>
65. 菅生石部神社-神社探訪・狛犬見聞録,(2025.07)
<http://www.komainu.org/isikawa/kagasi/sugouisobe/sugouisobe.html>